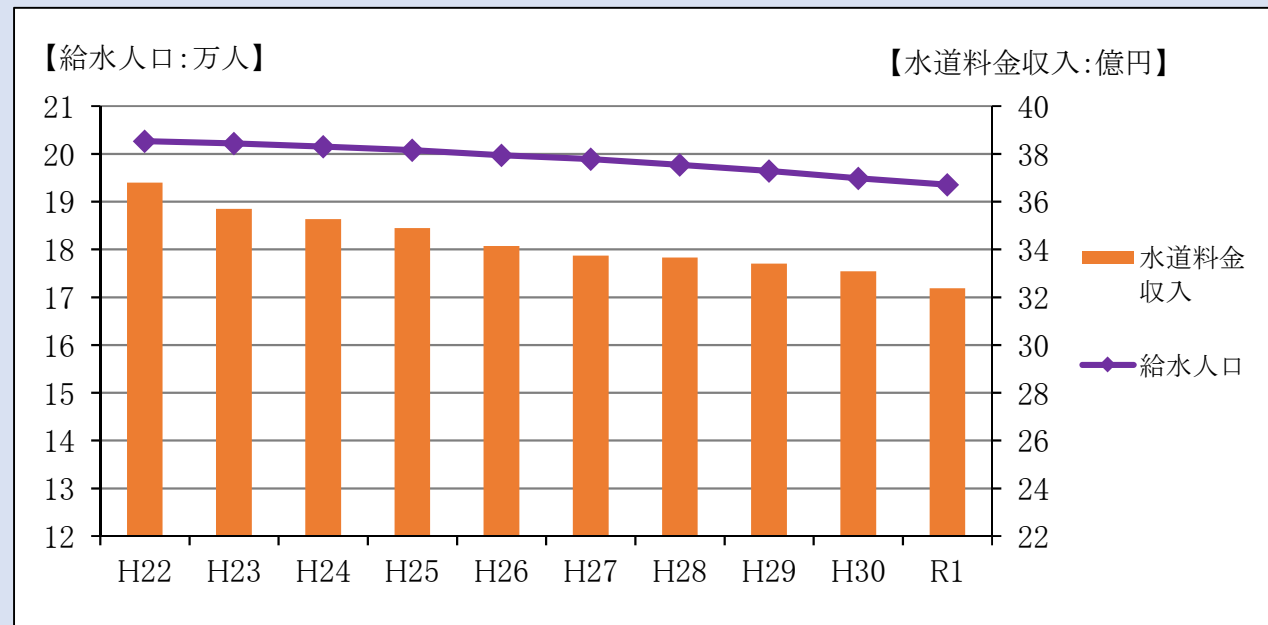


# 令和元年度 上水道事業 決算の概要

## ①水道料金収入



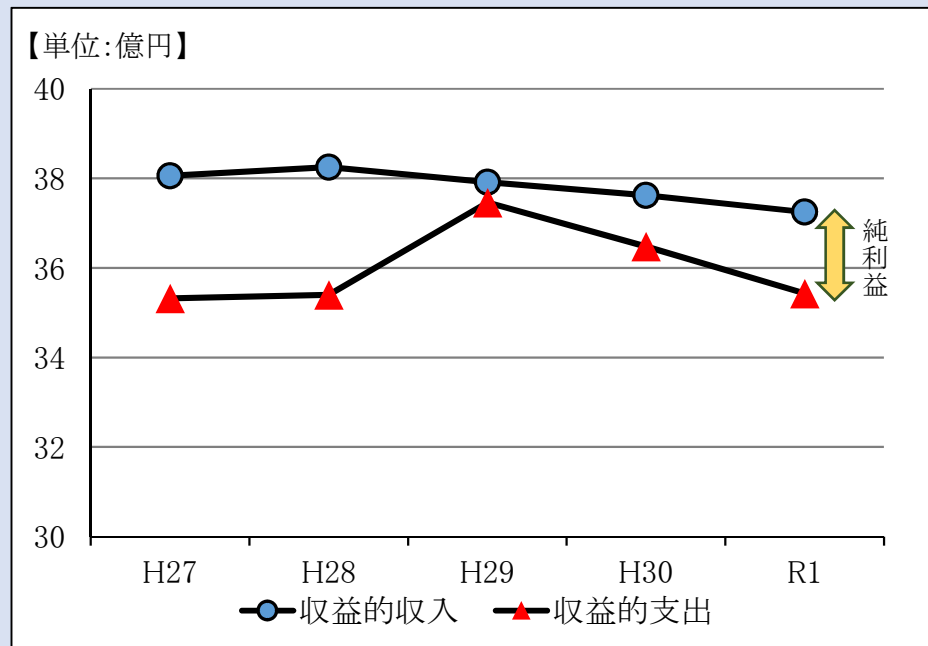
### 【決算の状況】

水道料金収入は約32億4千万円で、前年度に比べ約7千万円減少しました。これは、近年の給水人口の減少傾向に加え、本年度は一部大口使用者の水量減少があったためです。

### 【今後の見通し】

大口使用者の今後の動向は見通すことは難しいですが、人口の減少は続く見通しとなっているため、水道料金収入も減少が続く見込みです。

## ②収益的収支



### 収益的収入：

お客さまからいただく水道料金など通常の業務活動に伴う収入。

### 収益的支出：

施設の維持管理にかかる費用など通常の業務活動に伴う費用。

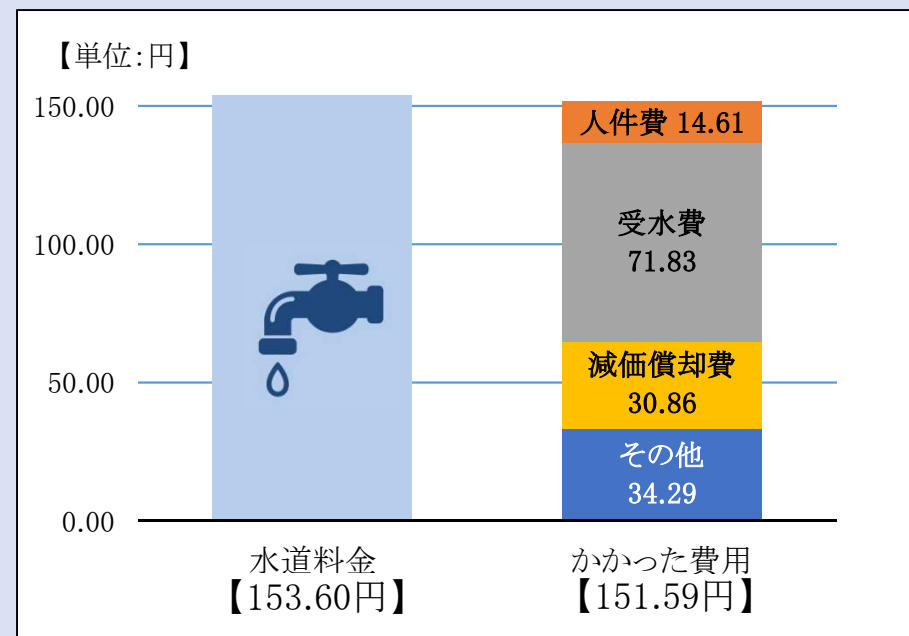
### 【決算の状況】

水道料金収入の減少により収益的収入は減少しましたが、収益的支出はさらに減少し、収入から支出を引いた純利益は約1億8千万円でした。収益的支出の減少は、浄水場の浄水処理が再開し、受水費が減少したためです。

### 【今後の見通し】

今後も水道料金収入は減少する見込みです。一方費用では、浄水場の工事が平成30年度で終了し、今後受水費は大きく変動しないと考えられますが、施設の更新・耐震化を進めることにより、減価償却費が増加する見込みです。

## ③水道料金と水を供給するためにかかった費用の比較(1㎡当たり)



### 受水費：

大阪広域水道企業団から水を購入するためにかかる費用。

### 減価償却費：

管路や施設など長期間にわたって利用する資産を購入したとき、その購入価格を、利用期間にわたって毎年平準化して費用に計上するもの。

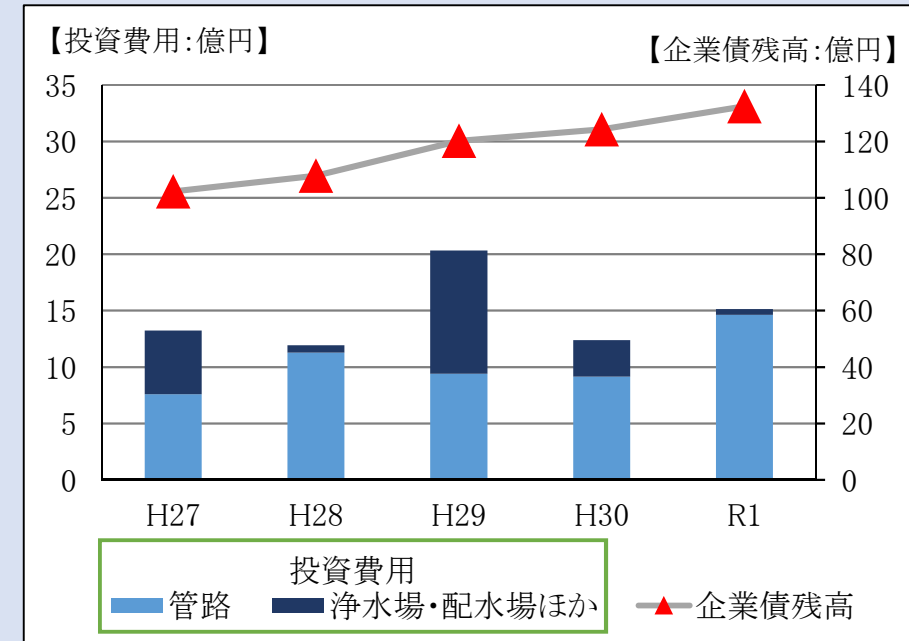
### 【決算の状況】

浄水場の耐震工事が完了し浄水処理が再開したことにより、受水費が前年度に比べ4.25円減少しました。「水道料金」>「水を供給するためにかかった費用」となっており、費用を料金で賄うことができています。

### 【今後の見通し】

老朽施設の更新や耐震化を進めるため投資費用が増加傾向にあり、今後減価償却費が徐々に増加する見込みです。

## ④投資費用と企業債残高



### 企業債：

投資費用の財源に充てるため、国や金融機関などから借り入れる借金。  
借り入れた後、30年かけて少しずつ返済することにより、負担を平準化しています。

### 【決算の状況】

投資費用は約15億円でした。丘陵地区整備事業があった平成27、29年度を除くと、本年度の投資費用は大きいですが、これは前年度から事業の繰越があったためです。投資費用の財源は、大部分を企業債に頼っています。

### 【今後の見通し】

今後10年間の投資計画では、毎年度18億円の更新費用が必要となる試算となっています。投資費用の財源に補助金や一般会計繰入金を最大限確保に努めますが、将来的に企業債残高は200億円を上回る見込みです。